

# 日本分析化学専門学校 議事録

## 令和3年度 学校関係者評価委員会

日 時	令和3年6月24日（木） 15:00 ~ 17:00													
出席者	出	出	出	出	出	欠					校内関係者（事務局）			
	梅川 雅章	内田 敬	濱田 妙	長田 芽生	石田喜 一郎	大原 一浩					重里 徳太	尾崎 信源	渡邊 快記	高稲 侑暉
No.	項 目		審 議 経 過										担当	期限
1	開会		事務局より開会の挨拶がなされ、令和3年度 日本分析化学専門学校 学校関係者評価委員会が開会した。											
2	委員紹介		事務局より、本委員会の全委員の紹介がなされた。 →資料・令和3年度「学校関係者評価委員会」委員リスト  <ul style="list-style-type: none"> <li>・梅川雅章 委員（分野団体・大阪府職業能力開発協会 技能検定課長補佐）</li> <li>・内田 敬 委員（企業・交洋ファインケミカル株式会社 総務部次長）</li> <li>・大原一浩 委員（高等学校・大阪府立成美高等学校 教諭）</li> <li>・濱田 妙 委員（在校生保護者）</li> <li>・長田芽生 委員（卒業生・東洋サクセス株式会社）</li> <li>・石田喜一郎 委員（校長指名・大研科学産業株式会社 営業部副部長）</li> </ul>											
3	校長挨拶		重里校長より、委員会開催にあたり以下の挨拶および学校の現状報告があった。 →資料・専修学校の質の保証・向上に関する調査協力関係者会議における想定される論点等 <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の振り返り・今年度の状況</li> <li>・本校3つのポリシー</li> </ul> （1）最近の状況について <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年4月に新校舎と旧校舎が一体となり、電子黒板やWi-Fiを新たに設置するなど、ICT化も図りながら学生たちの授業を進めている。</li> <li>・コロナウイルスの感染状況は、昨年は学生2名、今年に入り1名陽性が判明。しかし、いずれも家庭内の感染であったため、学校からクラスター的な広がりや濃厚接触者が出たという事例はなかった。そのため、消毒作業のための一時的な休校はあったものの、授業や実験は止めることなく運営した。ただ、本年5月に教員1名が感染したことで、5月の中旬から下旬の2週間に関しては、授業はオンライン、実験は対面という形式で実施した。結果として適切な対応ができたと考えている。</li> </ul> （2）学校関係者評価委員会に関わる国の動きについて <ul style="list-style-type: none"> <li>・この学校関係者評価委員会の位置づけが、国の種々の政策の中で重要性を増してきている。昨年度からスタートした高等教育の修学支援新制度”においては、学校関係者評価委員会の開催もその認定要件とされている。</li> </ul>											

・昨年度はこの認定校になった結果、本校の学生の約一割である約30名が学費の減免を受けることができた。逆の言い方をすれば、認定校になっていなければ、この学生たちが減免を受けることができなかったという観点から、本委員会の役割と責任は大きい。

・文部科学省に“専修学校の質保証・向上に関する調査研究協力者会議”という会議体がある。現在は職業実践専門課程制度の充実についてがテーマになっており、第三者による評価を含めた学校評価の在り方の検討も議論の対象になっており、職業実践専門課程の認定要件として、この学校関係者評価の在り方の見直しが始まっている。

### (3) 昨年度の振り返りと今年度の状況について

・昨年度のコロナウイルスへの対応という点では、4月の授業開始と同時に遠隔授業を開始したということがスタートであった。Zoomとは何だというレベルから試行錯誤を繰り返したが、その間、文部科学省からも評価をいただき、同省のYouTubeサイトで、本校の遠隔授業の取組を紹介する機会をいただいた。また、同省が制作されている“文部科学省広報”という雑誌にも取組が掲載された。

・学生にも上記の間のアンケートを実施したところ、遠隔授業の理解度に関しては“十分理解できる”、“理解できる”を合計すると85%が理解できるという回答を得た。他にも休業要請中の学校の対応についてのアンケートでは“授業シートを前日に送信する”、“授業を録画でも見られるようにする”あるいは“WEBでの個別の面談に応じる”といった学校の対応についても、“非常に良い”、“良い”を合計する95%以上という回答を得た。

・6月から分散登校を開始、7月からは完全対面授業を実施したが、今日までコロナ陽性者は4名に留まり、また全員が自宅内感染であったことを鑑みると、本校の管理状況も悪くなかったと考えている。

・国家試験に関しては、延期になったり、回数や受験者数が減ったものはあったが、完全に中止になるという事象はなかった。

・卒業研究発表会や卒業式などのイベントは、本来は、企業の方、高等学校の先生方あるいは保護者に参加いただいていたが、参加の中止や人数制限を余儀なくされた一方で、それらをオンラインで配信したことで、今まで参加が叶わなかった遠方の方にも視聴いただけたことは、情報公開が一段進んだことにもつながったと考えている。

・ここからは、数的な振り返りということで、まずは募集状況からご報告する。入学者ベースでは昨年度比マイナス6.5%。

要因としては、私立大学の一般入試の出願者が大きく減少をしたこと。近畿では昨年度対比で約12万人減少している。このことで大学の不合格者が減少したことで、例年大幅に出願者がある2～3月の本校への出願が減少したと考えている。また、コロナ禍の状況下で既卒進学者の出願減少も要因である。但し、前半の出願が多かったため、この程度の減少幅に留まったとも考えている。

・進路決定状況は19年度「96.3%」(卒業生107名)から20年度「95.7%」(卒業生140名)となった。進路決定率に関しては若干減少したが、卒業生が今年の方が30名ほど多かったこと、昨年度の就職活動については、実質コロナ禍で2ヶ月間できなかったことも鑑みれば、決して悪かったとは考えていない。大学編入学に関しては、19年度5名に対して20年度は15名と大幅に増加した。

・資格取得の状況としては、受験率100%を目指していた化学分析技能士3級は84.3%に留まったが、受験者数、取得率に関しては大幅に増加した。

		<p>危険物取扱者甲乙種に関しても取得者数・取得率ともに増加した。ビジネス能力検定に関しては合格率は相当向上はしているものの、受験率が低いのでこの部分は向上させたいと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記の結果は、3つのポリシーにおける到達目標の結果として、印刷物にして入学検討者等にもすでに公表している。</li> <li>・中途退学者については、昨年度は6名であった。全学生を分母にした中退率としては1.9%に抑えることができた。一昨年は11名の4.4%であったことから、コロナ禍の難しい学校運営の中で、教職員の努力の結果だと考えている。</li> <li>・今年度の注力すべき点として、一つ目に教育のICT化を挙げたい。今年度から電子黒板や全館にWi-Fiなどを設置したが、コロナ禍の中でGIGAスクールと呼ばれるいわゆる一人一台の端末所持が進展している中で、それらが整った教育環境で育ってきた生徒らが専門学校に入学するとアナログに逆戻りといったことにならないよう情報にもインフラ整備にも注力していきたい。</li> <li>・最後に教育情報の公開、教育の見える化の施策として、現在は動画撮影を強化している。見える化の究極としては、入学時から卒業時までの学生のすべての成長を記録し公開することにつきると考え初めて登校するときの緊張した面持ちから、各種の教育やイベントなどの学校生活を通したさまざまな場面をリアルに撮影し、最終的には、卒業後の一年間も含めた3年間の学生たちの歩みを数年後に公開したいと考え、4月から撮影を開始している。今日までの約3ヶ月分の学生の歩みを6月末から7月初旬頃に、まずは公開できる予定で、以後は3ヶ月に一度ぐらいの頻度で更新していき、最終的には3年間のドキュメンタリー番組のように仕立てあげたいという主旨のもと、現在プロジェクトを進めている。</li> </ul>		
4	委員会の位置づけと目的	<p>事務局より、本委員会の位置づけと目的に関して、以下の説明があった。</p> <p>→資料・職業実践専門課程の文部科学大臣認定状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門実践教育訓練給付金制度について</li> <li>・職業実践専門課程制度と本校との関係について</li> </ul> <p>・職業実践専門課程の認定要件として、教育課程編成委員会とこの学校関係者評価委員会の開催が義務づけられている。</p> <p>・最新の全国の職業実践専門課程の認定状況として、工業系の学校数としては678校となっている。</p> <p>・また、校長から説明があった高等教育の修学支援新制度以外にも、厚生労働省の専門実践教育訓練給付金制度にも職業実践専門課程の認定が紐付けされ、現在の在校生では、5名がこの制度を利用して通学している。</p>		
5	自己評価 学校関係者評価規程について	<p>事務局より、自己評価 学校関係者評価規程の案を説明し、委員による評決の結果、原案通り承認することとなり、委員長として内田 敬委員が就任することとなった。</p> <p>→資料・日本分析化学専門学校 自己評価 学校関係者評価に関する実施規程（案）</p>		
6	本校の自己評価の報告	<p>委員長より指名を受け、事務局より、専門学校の評価は外部のアンケート等も参考に教職員による評価(自己評価)をPDCAサイクルに基づき実施し、学校自らが選任した学校関係者(業界団体・企業・高等学校・保護者など)による委員会が自己評価の結果について評価を行う(学校関係者評価)ものであること。また、学校関係者は教職員と</p>		

共通理解を図り、自己評価結果の客観性・透明性を高め、今後の学校運営の改善のための助言等を行い、この評価結果をとりまとめ公表するとともに一定レベルを担保していくものであることを説明した。

また、校長より、このような主旨を理解の上、本委員会では教職員による自己評価について、厳しめの視点で忌憚のない意見を求めたいということ。また、この評価項目は文部科学省の「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき策定しているという前提を説明した上で、令和2年度自己評価結果報告書の各項目について、事務局から昨年度との変更点を中心に詳細な説明を行った。

→資料・令和2年度 自己評価結果報告書

・2019年度 学校関係者評価委員会議事録

① 自己評価等のスケジュール

② 令和2年度の重点目標

1. 本校が設定する3つのポリシーの学外周知と到達目標の達成
2. ICT化への対応準備
3. 新型コロナウイルス感染予防対策の徹底と適切な学校運営

③ 自己評価項目と自己評価結果

- ・教育理念・目的・育成人材像（4項目）
- ・学校運営（6項目）
- ・教育活動（13項目）
- ・学修成果（5項目）
- ・学生支援（11項目）
- ・教育環境（3項目）
- ・学生の受け入れ募集（4項目）
- ・財務（4項目）
- ・法令等の遵守（4項目）
- ・社会貢献・地域貢献（2項目）
- ・国際交流（4項目）

上記項目中、昨年度より向上した項目が12、低下した項目は8。

7 自己評価への意見

各委員から事前に書面提出されたものを含めて、以下のような意見があった。また、評価内容や点数については適当との評価を得て、令和2年度の自己評価については、適切な実施の上での結果であるとの結論となった。

→資料・「令和2年度 自己評価結果」へのご意見、質問

①評価項目2-5 教育活動等に関する情報公開を適切に行っているか

【意見】学生による出身高校訪問は学生の負担になっていないか。また、高校の先生からの評価は、どのような形式なのか聞きたい。

【回答】出身校訪問は1年生・2年生とも夏期休暇の課題として実施している。自身が卒業した高校に現状を報告に行くことが負担かどうかは色々な考えはあるが、訪問カードに記入された高校の先生からのコメントには、生徒に対する励ましの言葉や成長した姿に対するメッセージ。こういう活動に対するご意見もあるが、大半は卒業後の姿を見られて良かったというもの。それを学生が見れば、最初は負担に感じたとしても、後に充足感に変わっていると考えている。

②評価項目3-1 教育目標、育成人材像は、業界の人材ニーズに向けて正しい方向付けができていないか

【意見】学生の気質が変わる中、技術だけでなく、人間的にも周りの諸先輩に好かれる人材を輩出されている。

③評価項目 3-4 実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施できているか

【意見】電子黒板の設置は、教員、学生双方にとって良い取組だと思う。

【回答】実験のガイダンスを行う際にイメージが沸くように、器具や実際の結晶の画像等を映すことで、学生の理解向上につながっていると考えている。

④評価項目 4-3 退学率の低減が図られているか

【意見】新型コロナウイルスの対応で、学生が心細い思いをしている中、個別の対応や保護者との連携がよく図られていると思う。企業でもメンタルヘルスの参考にしたい。

【回答】休業要請中は基本的にオンラインでの個別面談を行った。オンライン授業開始時の点呼は、挙手やシステムでの確認ではなく、学生同士の声が聴けるように、音声で返事をさせるなど工夫を行い、学生からは安心したとの声を聞くことができた。

⑤評価項目 5-7 保護者と適切に連携しているか

【意見】さまざまな経歴の学生やタイプの異なる学生が入学していると伺っているが、学業だけではなく、そういった交わりから色々なことを学んでいると感じている。卒業生の保護者の視点としては、先生がフレンドリーで良く話しを聞いてくれるとも思っている。他の専門学校では、先生との接点がない場合もあると聞いている。

また、学校の成績や様子が共有できるので、保護者との懇談の機会があるのはありがたいし安心に繋がっている。

⑥評価項目 6-1 施設・設備は、教育上の必要性に充分対応できるよう整備しているか

【意見】15年ほど前から、「薬品管理検討委員会」や「薬品管理システム導入委員会」を設置している企業や大学が増えている。LDAP連携、発注システム連携、届出書対応など、どこまでするかで費用は大きく変わるが、検討すべきではないか。

【回答】実験室の機器・設備・試薬の管理に関しては、長年の課題としながら管理状態の明確化や改善ができていないというコメントと理解している。特に卒業研究は学生の希望によって毎年テーマが変わるもので、その都度試薬を購入し残ったとしても翌年活用できず在庫として残っていくものもある。そういった観点からも管理レベルは向上させる必要があり、前向きに取り組みたいと考える。

⑦評価項目 10-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行なっているか

【意見】ボランティア活動は「させていただいている」という感謝の気持ちと、社会参加をすることで自己肯定感も醸成できる。自ら進んで取り組み、自分一人で生きているのではなく支え合っていることを実感させてほしい。

【回答】つい先日でもコロナ禍ではあったが献血のボランティア活動を行い、学生の3分の1以上の100人超が協力する意向を示しました。課外活動も勧奨しており、8割の学生が何らかの委員会に所属している。授業や実験だけでなく、プラスαで実務実践力を身につけて欲しいと考えており、学生の資質向上にもつながっている。

		<p>然この期間に出願されるのが普通であるが、団体として出願される先生の対応が遅い。受付期間を超えても書類が出ていなかった。おそらく一部の学生のを待っていたのだと思うが、期限は守っていただきたい。他校より申請数が多いことは事実であるが、他の学校はきっちり出している。学校で十二分にサポートいただきたい。</p> <p>【回答】誠に遺憾ながら本事象は今回のご指摘で始めて理解した。出願期間を超えると受理されないのは当然であるので、次回以降に万一同じ事象が生じた場合は、受付を締め切っていただきたい。</p>		
9	閉会	<p>事務局より閉会を宣言し終了した。</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>		